2017.10.06
日本女子大学八十年館5階851教室

2017年日本女子大学主催『はごろも』研究会公開シンポジウム

「日本語の自動詞・他動詞を考える」

辞書における自動詞他動詞

山崎　誠（国立国語研究所）

1.概要

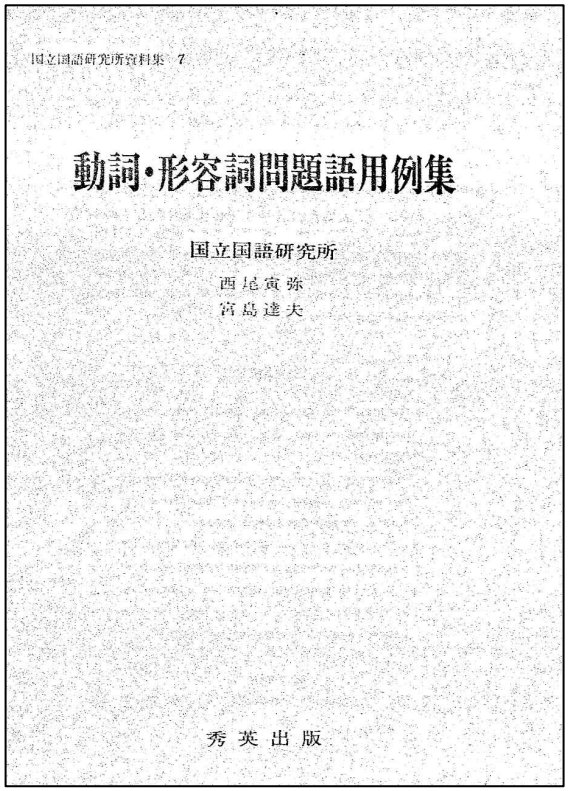
- 「日本語教育語彙表 Ver 1.0」における初級前半・初級後半の動詞122語について，5冊の小型国語辞書で動詞の自他の情報を調べた。
- （1）自動詞・他動詞の区別は122語中21語が何らかの形で違っていた。
- （2）自動詞・他動詞の区別が異なる理由は，新しい用法の有無，既存の用法の捉え方の違いによる。

2.はじめに(1/2)

- 自動詞，他動詞の区別は多くの国語辞書に掲載されているが，それらの情報はどの辞書でも同じなのか。
- 同じだとしたら辞書は1冊持っていればよい。
- 自動詞，他動詞の区別が違っていたら，どれが正解なのかの判断は難しい。

2.はじめに(2/2)

- 国立国語研究所(西尾寅也・宮島達夫)(1971)『動詞・形容詞問題語用例集』



2.はじめに

- 「自動詞か他動詞か決めにくい語の用例」

1. 辞典によってゆれているものの表

（＊印は『岩波』第2版で修正されたもの。p. 188 参照。）

	言海	大日本	辞苑	明解	広辞苑（一）	三省堂（小）	角川	新選	岩波	講談社	三省堂（中）	広辞苑（二）
哀願する				自		自	両	他	自	他		
仰ぐ	両	両	両	両	両	両	両	両	他	両	両	他
あがる	両	両	両	両	自	自	自	自	自	両	両	自
あくがれる	自	自	自	自	自		自	自	自	自	自	自
あこがれる	自	自	自	自	自	自	両	両	自	両	自	自
焦る	自	自	自	自	自	自	自	両	自	自	自	自
あてこする	自	自	自	自	自	自	他	他	自	自	自	自
あびる	他	他	他	他	他	他	他	自	自	他	他	他
あまんずる	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自
あらそう	他	他	他	他	他	他	他	他	他	他	他	他
あわれがる		他	他	他	他	他	他	自	他	自	他	他
言いそこなう		他	他		他		他	自	他	他	他	他

3.データ

- 動詞の選定は，日本語学習辞書支援グループ (2015)「日本語教育語彙表 Ver 1.0」を利用した。
- 同語彙表には，2153個の動詞が収録されているが，そのうち語彙の難易度が「初級前半」（33語），「初級後半」（89語）と判断されている，122語を対象とした。

日本語教育語彙表 Ver 1.0

- https://jreadability.net/

初級前半　33語

- 会う　開ける　遊ぶ　ある　歩く
- 言う　行く　いる　歌う　起きる
- 教える　泳ぐ　終わる　買う　帰る
- 書く　貸す　聞く　着る　切る
- 来る　知る　住む　する　食べる
- 作る　寝る　飲む　待つ　見る
- 休む　読む　分かる

初級後半　89語(1/2)

- 合う　上がる　開く　上げる　集まる
- 浴びる　　洗う　　生きる いらっしゃる　　要る
- 入れる　　生まれる　売る　　選ぶ　　置く
- 送る　遅れる　押す 落ちる　　落とす
- 覚える　　思う　　降りる 下りる おる
- 飼う　返す　　変える　借りる　　渇く
- 変わる　考える　頑張る 消える 聞こえる
- 決まる　　決める　曇る　くれる　消す
- 答える　　困る　　壊す　　死ぬ　　閉まる

初級後半　89語(2/2)

- 閉める　調べる 吸う　すく　進む
- 捨てる　座る　出す　立つ　立てる
- 楽しむ　違う　使う　疲れる　出掛ける
- 出来る　出る　届く　飛ぶ　止まる
- 取る　撮る　成る　脱ぐ　登る
- 乗る　入る　履く　始まる　始める
- 走る　働く　話す　晴れる　引く
- 弾く　降る　見える　磨く　見せる
- 持つ　もらう　呼ぶ　忘れる

利用した辞書(1/5)

- 西尾実他編(2011)『岩波国語辞典』第七版新版，岩波書店

- https://www.iwanami.co.jp/book/b256575.html

利用した辞書(2/5)

- 金田一京助他編(2011)『新選国語辞典』第九版，小学館

- https://www.shogakukan.co.jp/books/09501408

利用した辞書(3/5)

- 見坊豪紀他編(2014)『三省堂国語辞典』第七版，三省堂

- http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dicts/ja/sankok7/

利用した辞書(4/5)

- 山田忠雄他編(2012)『新明解国語辞典』第七版

- http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dicts/ja/smk_kok7/

利用した辞書(5/5)

- 北原保雄編(2010)『明鏡国語辞典』第二版

- https://www.taishukan.co.jp/book/?book_no=197673

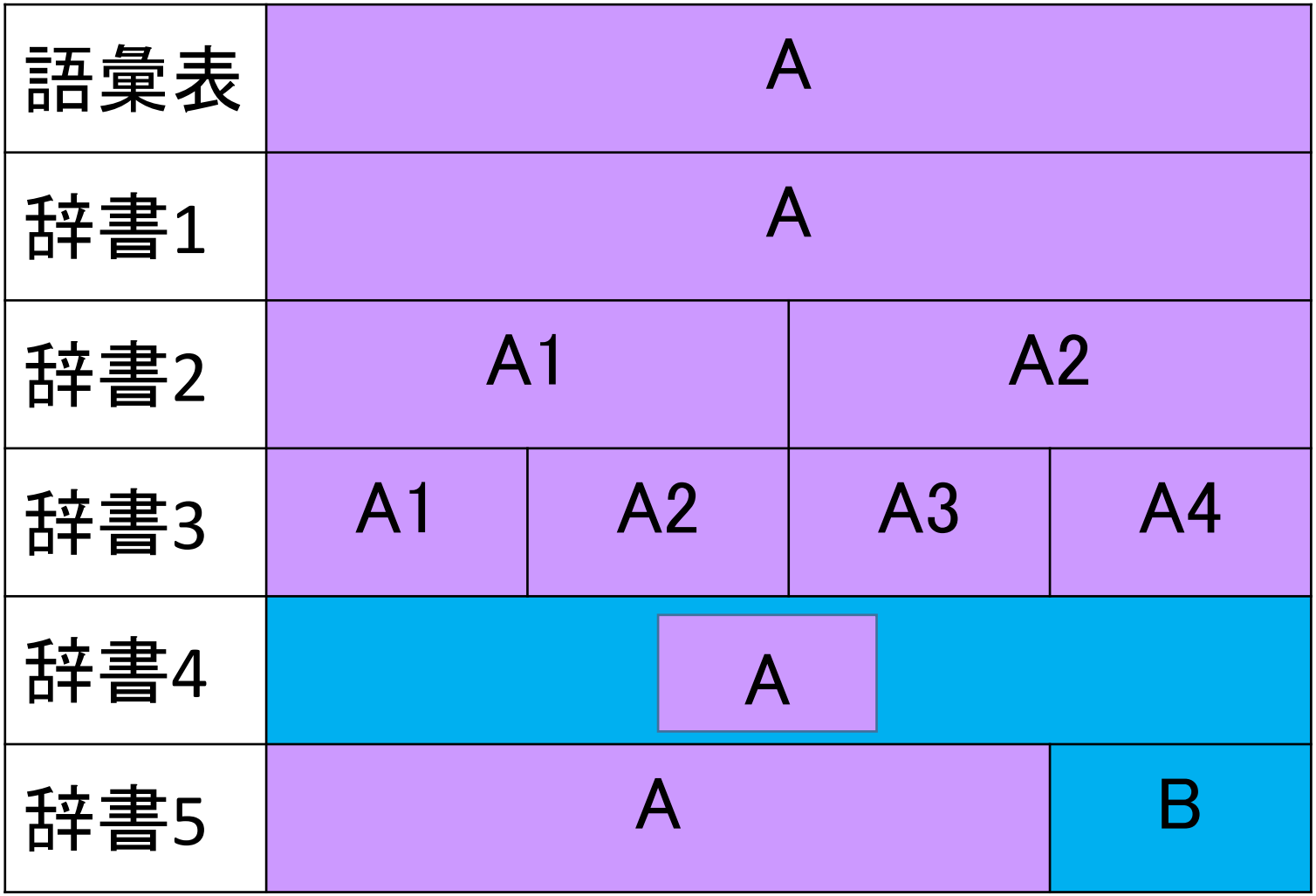
4.調査方法(1/3)

- 各辞書の凡例にある，自動詞，他動詞のラベルで表示されているものを取り上げる。
- ラベルはないが，注記として「自動詞的に」などの具体的な文言がある場合も(　)に入れて示した。

4.調査方法(2/3)

- 語彙表の動詞と各国語辞書の動詞では見出し語の意味範囲が異なる場合があるが，該当する部分を特定し，語彙表の動詞と対応させた。
- 例えば，「要(い)る」は岩波国語辞典では，見出し語「入(い)る」(自動詞)の3番目の意味として挙がっているため，その意味に限定して対応させ，自動詞とした。

意味の範囲の食い違い（イメージ）



4.調査方法(3/3)

- 語彙表で平仮名で表記され，同音の動詞が他にもある語は以下のように処理した。
- 「いる」…「居(い)る」，「おる」…「居(お)る」，「くれる」…「呉れる」，「すく」…「透く・空く」

- 新選国語辞典では古語の意味も掲載されているが，それは調査対象としなかった(「住む」の他動詞など)。

5.結果

- 自他が一致　101語
- 自他が不一致　21語

- 一致の内訳（語数）

	自動詞	他動詞	自他
一致	52	44	5

6.自他が食い違っている例

- 新用法の有無
- 既存の用法の捉え方の違い

6.1新用法の有無

①「売る」(他動詞優勢，自動詞もあり)

- 自動詞の例

三省堂

- う・る[売る][一](他五)＜省略＞ [二](自五)〔俗〕〔「…が売っている」の形で〕売られている。「店にパンが売っている」

明鏡

- う・る「売る」(他五)①代金と引き換えに品物や権利などを相手に渡す。＜例文省略＞ (語法)「イチゴが売っていたよ」のように、物を主語にした「～が売っている」の形が時に見られるが、文法的には誤り。

②「押す」(自他両用が優勢)

- 自動詞の例

岩波

- お-す【押す・推す・△圧す】(五他)＜省略＞②放送界・芸能界で、プログラムの進行の遅れがあとを圧迫する。「二分半ー・していますよ」▽自動詞的な感じで使うことが多い。

明鏡

- お・す【押す】(他五)＜省略＞⑥〔自動詞的に〕そのままの状態で物事を進める。行く。「この方針[強気]でー」
- ＜省略＞
- ⑪〔自動詞的に〕放送・会議などで、予定が延びて遅れぎみになる。「時間がー・しているので急いでくれ」
- 三省堂，新選は自他で表示。新明解はこの用法(時間が押す)がない。

③「脱ぐ」(他動詞優勢，自動詞もあり)

三省堂

- ぬ・ぐ[脱ぐ][一](他五)からだにつけているものを取る。「上着を―・くつを―」(⇔着る・はく)[二](自五)〔俗〕〔撮影(サツエイ)で〕ヌードになる。「人気女優が―」る。

明鏡

- ぬ・ぐ【脱ぐ】(他五)①身につけていたものを取り去る。＜例文省略＞②〔俗〕芸能人などが仕事で裸になる。▽自動詞的に使う。

6.2既存の用法の捉え方の違い

①「送る」(他動詞優勢)

- 自動詞の例

明鏡

- おく・る【送る】一(他五)＜省略＞
- 二(自五)時を過ごす。また、あるしかたで生活する。「幸福な人生[不安の日々]を―」「学生時代は下宿生活を―・った」

(参考)

- (ウ)「道を歩く」や「幸福な人生を送る」など、移動や時間の経過を表す動詞で、対もなく、「～を」への働きかけも認めにくいものは、自動詞とする。
- (「明鏡国語辞典」第二版　付録・品詞解説の自動詞・他動詞の項P.1887下段)

②「教える」(他動詞優勢)

- 自動詞の例

三省堂

- おし・える[教える]ヲシヘル[一](他下一)①相手が〈理解できる／身につけられる〉ようにみちびく。「英語を―・人の道を―」②自分の知っていることを人に知らせる。「集合場所を―」③〔人を〕教育する。「生徒を―」[二](自下一)教育を仕事にする。「大学で―」

③「聞く」（他動詞優勢）

- 自動詞の例

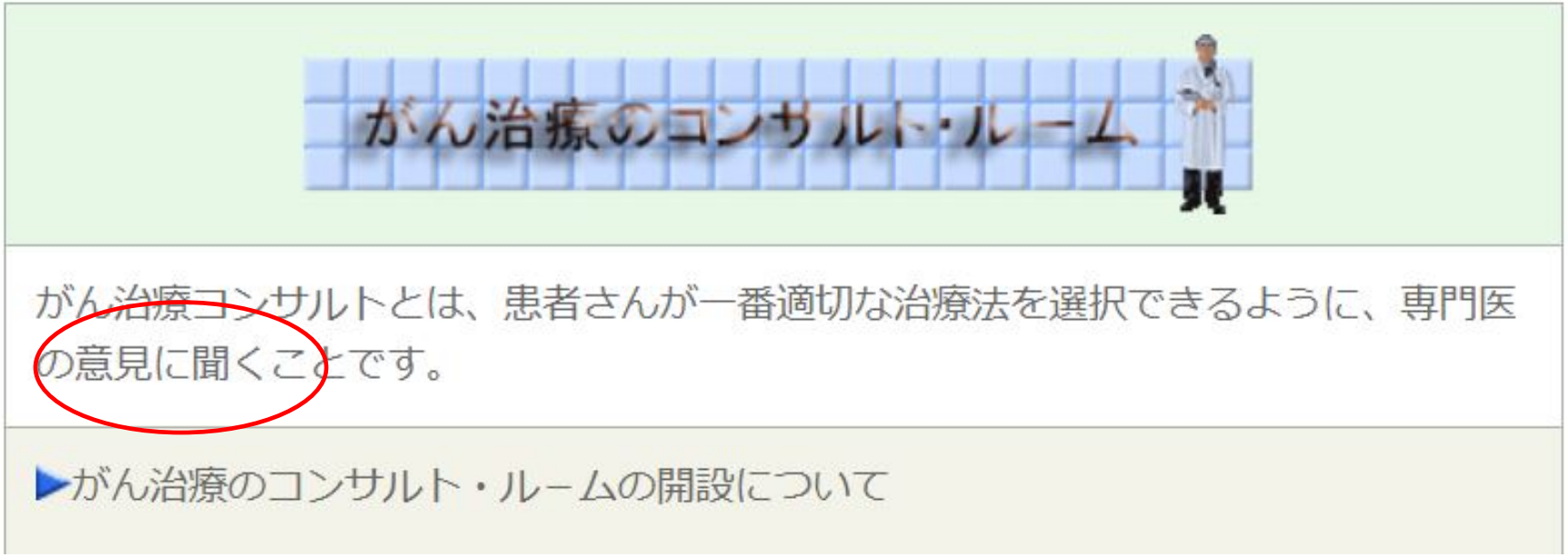
三省堂

- き・く[聞く][一]（他五）＜省略＞ [二]（自他五）〔文〕参考のため、耳をかたむける。「国民の意見〈に／を〉―〔『を』のほうが積極的〕」
-

（参考）

- 「国語研日本語WEBコーパス」では，「意見に聞く」で該当例は以下の1例のみ。
- ガン治療コンサルトとは、患者さんが一番適切な治療法を選択できるように、専門医の意見に聞くことです。

- http://w3.toen-online.com/asahi/s_advice.html



④「生きる」(自動詞優勢)

- 他動詞の例

三省堂

- い・きる[生きる・▽活きる][一](自上一)＜省略＞[二](他上一)〔その状況(ジョウキョウ)の中で〕時を送る。生きぬく。「今を―・〔役者が〕役を―」

明鏡

- い・きる【生きる】一〔自上一〕①＜省略＞二〔他上一〕《同族目的語などをとって》そのような人生を送る。「幸福な人生を―」「悔いのない青春を―」「己(おのれ)の信念を―」(語法)英語などの翻訳から出た言い方。

⑤「切る」(他動詞優勢)

- 自動詞の例

明鏡

- き・る【切る(斬る・△伐る)】(動五)一(他)<省略>二〔自〕ある基準の数値を下回る。割る。「体重が五十キロを―」「百メートル競走で一〇秒を―」

- 他の辞書ではこの用法は他動詞。

岩波　②基準とする値に達しない状態にする。[切]「元値を―・って売る」「持ち時間が五分を―」

三省堂　⑳ある数より下になる。「残り二〇秒を―」

新選　⑦数値がある限界より低くなる。「参加者が三十名を―」

新明解　四〈なにヲ ― 〉そこまで到達しない範囲内に とどまる。割る。「百メートル競走で十秒を ― 〔=十秒未満で走る〕／元値を切って売る」

⑥「返す」(他動詞，自他両用)

- 自動詞の例

三省堂

- かえ・す[返す]カヘス[一](他五)＜省略＞ [二](自五) ①〔むこうへ〕遠ざかる。返る。「寄せては―波の音」② 〔古風〕〔こちらへ〕ひきかえす。「返せ、戻(モド)せ」

新明解

- かえ・す (他五)一【返す】＜省略＞③〔自動詞的用法〕それまでと逆の方向に移動するようになる。「寄せては ― 波／途中から△取って(引き) ― ／熱がぶり ― 」

⑦「開(あ)く」(自動詞優勢，自他両用も)

- 他動詞の例

三省堂

- あ・く[開く][一](自五)＜省略＞ [二](他五)〔自然に〕あける。「口を―・目を―」

明鏡

- あ・く【開く・空く・明く】一〔自五〕＜省略＞二〔他五〕[開]〔俗〕口や目を開(あ)ける。「大きく口を―・いてください」
  (語法)「開く」を他動詞的に使うのは誤用ともいう。

⑨「答える」（自動詞優勢）

- 他動詞の例

明鏡

- こた・える【答える】ー〔他下一〕相手の質問などに対して、言葉を返す。返事をする。「問われるままにありのままをーた」二〔自下一〕問題を解いて答えを出す。解答する。「次の問いにー・えよ」

⑩「思う」（他動詞優勢）

- 自動詞の例

明鏡

- おも・う【思う（△想う）】（他五）＜省略＞④《「…と」や「…を」を伴わず、自動詞的に》考えが巡る。「我―、ゆえに我あり」「今にして―・えば僕も若かった」「―・ったより金がかかった」▽頭の中で考えが巡らされたことを示す。場面により、思考、回顧、予想など、さまざまな意に解釈される。

⑩「思う」(他動詞優勢)

- 自動詞の例

三省堂

- おも・う[思う・▽想う]オモフ(自他五)①論理的にではなく、そう〈感じる／判断する〉。「きのうより寒いように―・相手の言うことは正しいと―」②感情を持つ。「うれしいと―・不愉快(フユカイ)に―」③(いろいろと)心に えがく。「―ところあって筆をとった・〔文章の題で〕夏に―」④想像する。「彼(カレ)の得意や―べし〔=想像できる〕」⑤しようと心に決める。「期日までに仕上げようと―」⑥したいと願う。望む。「―ままに書く」⑦そばに行きたいと願う。恋(コ)いしたう。「故郷を―・あなたを―」⑧過ぎたことを思い出す。「昔を―」⑨〔「(…たい)と―」の形で〕これから実行することや自分の希望を やんわり示す。「では始めたいと思います・お許し願いたいと思います」

⑪「がんばる」(自他両用)

岩波

- がんば-る【頑張る】(五自他)①忍耐して、努力したとおす。「よく―・って見事に仕上げたものだ」②ゆずらず強く主張し通す。「―・って言い返す」「一番前に―・って(＝場所を独り占めにして)いて席を譲らない」▽「我(が)に張る」の意。

三省堂

- がん ば・る[≪頑張る≫](自他五)①一生懸命(ケンメイ)に〈努力／がまん〉する。「勉強を―・〔応援(オウエン)して〕がんばれ！」②考えを変えず、ずっと言い張る。「絶対売らないと―」③その場所や立場をずっと守る。「門番が―」

明鏡

- がん-ば・る【頑張る】〔自五〕＜省略＞(語法)他動詞としても使う。「英語の勉強を―・って一番になったこともある」

⑫「休む」(自他両用，自動詞)

岩波

- やす-む【休む】〔五自他〕①働きを一時やめて安らぐ。(ア)休息する。休養を取る。「少し―・んで、また始めよう」(イ)寝床にはいる。「今夜はもう―・もう」②活動を中断する、または中断した状態を呈する。「日曜も―・まず働く」「店が―・んでいる」。欠席・欠勤する。「会社を―」▽(1)は自動詞として、(2)は主に他動詞として使う。

三省堂

- やす・む[休む](自五)①とまる。やむ。「休まず前へ出る」②からだや心を安らかにする。いこう。「このへんで休もう」③〈欠席／欠勤〉する。「かぜで―・三日―」④「ねむる」を上品に言うことば。「奥(オク)で休んでおります・おやすみなさい」[他動] 休ませる(下一)。「手を―」

⑫「休む」(自他両用，自動詞)

新選

- やす・む【休む】(自五)　①活動をやめる。休息する。②欠席や欠勤をする。③「寝る」の丁寧語。「父はもう休みました」

新明解

- やす・む【休む】(自他五)
- 一　△仕事(活動)を一時やめて、心身を楽にする。「ツバメが電線に休んでいる〔=とまっている〕／しばらく―〔=休憩する〕か」
- 二　睡眠をとるために寝る。「もう遅いから、休もう」
- 三　〈(なにデ)なにヲ―〉
- 個人の都合で、本来その日にするべき△通勤(通学)をやめたり仕事をしなかったりする。「△学校(会社)を―／病気で―／日曜も休まずに勤めに出る」
- 四　〈なにヲ―〉
- 組織体の申合せにより、その日の業務は行なわないことにする。「週に二日―会社」

⑫「休む」（自他両用，自動詞）

明鏡

- やす・む【休む】ー〔自五〕①心身の疲れをとるために仕事や活動を中断する。休憩する。休息する。「昼食後、横になって一時間ほどー」「ー・まないで働く」②眠るために床につく。「毎晩十時にー」③仕事や勉強のためにいつも通っている場所に行かないで（家にいたままで）すます。「会社［学校・舞台］をー」
- 二〔他五〕①いつもしている仕事・業務を（例外的に）しないですます。休みにする。〔個人についても組織についてもいう〕「昨日は風で仕事をー・んだ」「都合により診療をー」②恒常的・習慣的にしている行動を一時的にやめる。休みにする。「体調を崩してジョギングをー」

7.まとめ

- 調査した122語のうち約17%の21語の自他が一致していなかった。
- 複数の辞書を見比べてもそれぞれの方針が違うことからどれに依拠してよいか迷う。
- 自動詞と他動詞の扱いが揺れている用法については，日本語学習者は（母語話者も）自他の違いを明らかにすることよりも，どのような構文で使用するかや，どのようなニュアンスであるかなどの方が実用的な情報だと思われる。

「終わる」

岩波

- おわ-る【終(わ)る】(五自)＜省略＞
- ▽「これで私の講演を―・ります」のように、他動詞的にも使う。

新明解

- おわ・る【終(わ)る】
- 一(自五)＜省略＞
- 二(他五)〈なにヲ ― 〉
- 終えることにする。「これで現地からの中継を終わります」

「終わる」

新選

- おわる【終(わ)る】①(自五)＜省略＞②(他五)終わりにする。すます。「これで発表を終わります」
- (参考)「終わる」と「終える」は、「…が終わる」(自動詞)、「…を終える」(他動詞)と用いるのが普通だが、「これで話を終わります」のように、他動詞的に使うこともある。

「終わる」

明鏡

- おわ・る【終わる】（動五）ー（自）＜省略＞
- 二〔他〕①続けていたことが、そこでおしまいになる。終える。「五時に会議をー」「話［支払い］をー」②続けてきた勤めや約割がそこでおしまいになる。特に、死ぬ。終える。「研修をーって任地に飛ぶ」「六〇歳で生涯をー（＝死ぬ）」
- （表現）「会議が終わる／会議を終わる／会議を終える」では、意味が微妙に異なる。「～が終わる」は自然のなりゆきをとして終了する、「～を終える」は意図的に終了する意。「～を終わる」は中間的な言い方で、自分の意図にかかわりなく終了する意。「これで挨拶（あいさつ）を終えます」というと、話し手の意図が前面に押し出されすぎるため、一般には「～を終わります」という穏やかな言い方になる。

- ご清聴ありがとうございました。